

重点戦略課題②

さっぽろを支え、発信する人づくり

市民生活の姿

人の尊厳、個性や男女共同参画⁵の理念が大切にされる社会の中で、子どもから高齢者まで生涯を通じて学び、その成果をさまざまな機会で発揮しまちづくりに積極的に参加するなど、市民一人ひとりが生きがいを持って暮らしています。

市立大学をはじめとする高等教育機関では、それぞれが個性ゆたかな教育・研究を行い、創造性あふれる多くの人材を生み出すとともに、地域への貢献はもちろん広く世界に情報を発信しています。

現状と課題

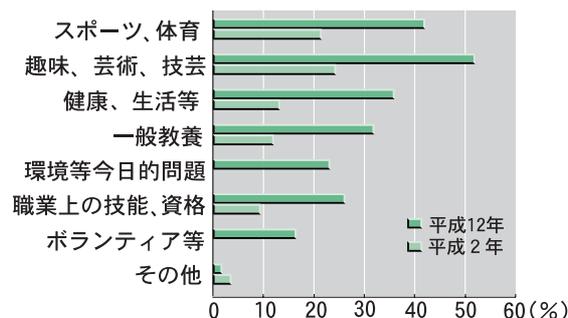
市民の学習・活動の状況

国際化や情報化の進展、自由時間の増大など社会の成熟化に伴い、幅広い年齢層の市民が自己研鑽や社会貢献などさまざまな目的を持って、学習・活動に取り組んでいます。今後は、市民のニーズに対応したより高度で多様な学習機会の提供や、その成果を発揮するための環境づくりが必要です。

市民ニーズと学習環境

個人の価値観やライフスタイルが多様化する中、さまざまな学習・活動に取り組む市民が増加してきています。今後は、市民の多様なニーズに対応した学習環境を整備し、その内容を充実させる必要があります。

●学習・活動をしている分野



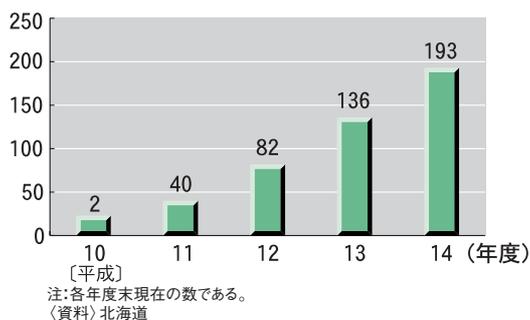
注：複数回答である。平成2年の設問には、「環境等今日の問題」と「ボランティア等」の選択肢がない。
〈資料〉札幌市「生涯学習に関する市民アンケート調査」
(平成2年、12年)

NPOなどによる多様な公益活動

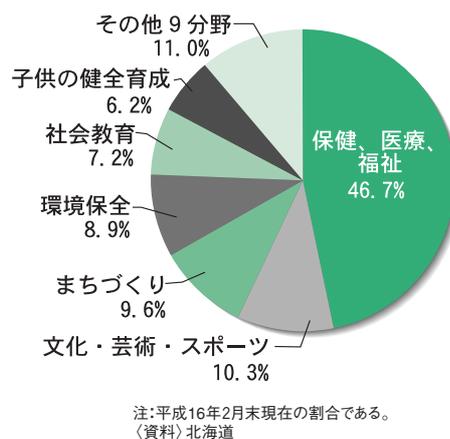
環境保全の推進や循環型社会への転換、ボランティア活動への参加など今日的課題への対応が求められる中、まちづくりをはじめ多様な分野でNPOなどによる自主的な公益活動が活発化しています。今後は、NPOなどとより一層連携を図りながら、市民が生涯を通じ学び、その成果を発揮できる環境づくりを進める必要があります。

⁵男女共同参画 男女が社会の対等な構成員として、自らの意思で社会のあらゆる分野の活動に参画する機会が確保され、男女が均等に政治的、経済的、社会的および文化的利益を享受することができ、共に責任を担うことをいう。

●札幌市内のNPO法人数の推移



●札幌市内のNPO法人の活動分野



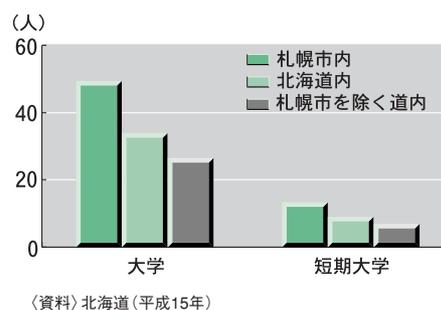
多様な価値観や人権の尊重

社会において多様な価値観が存在する中で、人に対する無理解、思いやりのなさなどに起因するプライバシーの侵害やいじめ、家庭内暴力など、解決しなければならない人権問題が多発しています。今後は、誰もが地域で共に生きる社会に向けて、社会的に弱い立場におかれている人々や先住民族の尊厳、人権を大切にする意識を醸成していくことが求められています。

高等教育機関での教育

札幌圏には、大学など多くの高等教育機関が集積し、優れた人材を生み出すことで地域の活気の源泉になっています。今後、この恵まれた環境をこれまで以上に活かすために、大学などが自らの特色を活かした魅力ある学校づくりを進め、多様な学習機会を提供することが求められています。

●人口1万人当たりの大学・短期大学入学定員比較



地域の中の高等教育機関

高等教育機関は、高度で専門的な教育を行うための人材・施設を有しており、今後、社会人のリカレント教育などにその人材・施設を活かし地域貢献を進めるとともに、大学間などのネットワークづくりに取り組むことが求められています。

各主体の主な役割

市民

- 自己を高める学習の実践
- 学習成果を活かしたさまざまな地域活動への取り組み など

企業等

- 従業員の学習環境の整備
- インターンシップの受け入れ
- 社会貢献活動への取り組み など

NPO等

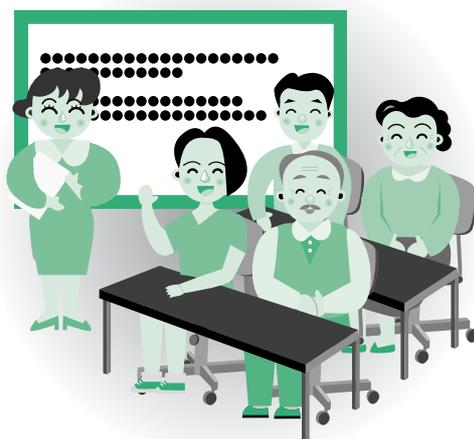
- 専門的な知識・技能の提供
- 自主的な学習機会の創出
- ボランティア活動の促進 など

大学などの高等教育機関

- 次代を担う人材の育成
- 他の大学などとの連携による人材育成機能の向上
- 社会人のリカレント教育推進
- 人材・施設の活用などによる地域への貢献 など

行政

- NPOなどと連携した市民の学習環境の整備
- 大学など高等教育機関との連携強化
- 公益性の高い学習機会やサービスの提供・充実 など



施策と事業

施策の基本方針

子どもから高齢者まで、市民の誰もがさまざまな学習に取り組みその成果を地域の活動などに発揮できる環境をつくっていくとともに、国際的視野を持ちながら地域への貢献を果たす（仮称）札幌市立大学の設置や高等教育機関との連携強化に向けての取り組みを進め、これからの社会を担う人材を育成します。

重点戦略課題 ②
さっぽろを支え、発信する人づくり

施策 1 多様な学習機会の提供とその成果を発揮できる環境づくり

施策 2 (仮称)札幌市立大学の設置と高等教育機関との連携強化

施策 1 多様な学習機会の提供とその成果を発揮できる環境づくり

地域やボランティア、NPOなどとの連携をさらに深め、子どもたちを含め市民の身近な場所での多様な学習機会を充実するとともに、学習やその成果を地域のまちづくりなどに活かす活動を支援します。

市民の身近な情報拠点としての図書館サービスの拡充や、地域住民のニーズに根ざした学校施設のさらなる開放に取り組みます。

環境問題や環境保全活動に対する理解と取り組みを進めるための環境教育や、司法制度改革での裁判員制度⁶導入を視野に入れた司法教育など、市民と共に取り組むべき課題に関する新たな学習機会を提供します。

さらに、子どもから高齢者まで、市民の誰もがさまざまな場面で、社会的に弱い立場におかれている人々や先住民族の人権について理解を深める機会を提供します。

事業名	事業内容	事業費	備考
新たな生涯学習推進構想の策定	札幌市における今後の生涯学習推進の指針となる新たな構想を策定します。	3百万円	●18年度策定
さっぽろ市民カレッジ	高度で継続的かつ体系的な学習機会を提供する「さっぽろ市民カレッジ」を実施します。また、ボランティア講師を養成するとともに、インターネット講座開設に関するモデル事業を実施します。	31百万円	●15歳以上の市民対象 ●生涯学習センターを会場に実施
市民との協働による都市計画制度の普及【再掲】	市民との協働による都市づくりを進めるため、都市計画の制度やしゅくみが市民に身近なものとなるよう、市民参加の勉強会や都市計画ガイドの作成などを通じて市民との協働による都市計画の啓発・普及を行います。	24百万円	
(仮称)札幌市子どもの読書活動推進計画の策定	子どもの読書活動の推進に関する施策を総合的かつ計画的に進めるための計画を策定します。	6百万円	●17年度策定

⁶裁判員制度 市民から選ばれた裁判員が、職業裁判官と一緒に重大な刑事事件の裁判をする制度。政府の司法制度改革審議会が平成13年6月に導入を提言。

事業名	事業内容	事業費	備考
図書館施設の拡充	図書館施設のネットワーク化を進めるとともに、(仮称)八軒中央地区センター図書室を開設します。	58百万円	<ul style="list-style-type: none"> ●地区センター図書室を含む図書館施設(36施設)のオンライン・ネットワーク・システム完成(16年度) ●地区センター図書室17年度開設
学校開放地域活動モデル事業【再掲】	地域の教育力向上や「開かれた学校」づくりを進めるため、放課後、休日、総合的な学習の時間における子ども向けのプログラムの企画・実施や学校施設利用のあり方の検討などをモデル校で実施します。	8百万円	<ul style="list-style-type: none"> ●学校、地域の団体等による運営委員会に4年間委託 ●5年目以後自主活動 ●学校開放地域活動実施校25校⇒40校(目標)
学校図書館地域開放事業【再掲】	子どもや地域住民の読書活動を盛んにするとともに、読書を通じて子どもと大人、大人相互の交流の場を広げ、地域の教育力向上と子どもの健全育成に役立てることを目的に、学校図書館を地域に開放します。	225百万円	<ul style="list-style-type: none"> ●新規開放9校(新琴似小、明園小、琴似小ほか) ●学校図書館開放校78校⇒87校(小・中学校) ●PTAに委託 ●活動はボランティア
資料館の法廷復元と司法教育への活用	文化資料室移転後の資料館内に旧札幌控訴院の刑事法廷を復元・整備し、司法制度改革推進における司法教育の充実を図るための場として活用します。	75百万円	<ul style="list-style-type: none"> ●18年度改装オープン
「男女共同参画さっぽろプラン」に基づく普及啓発事業	男女共同参画社会の実現に向けて市民や企業などがその理解を深めることができるよう、さまざまな機会や広報媒体を活用して普及啓発活動を行います。	30百万円	
アイヌ伝統文化啓発活動推進事業	自然との共生の中ではぐくまれてきたアイヌ民族の伝統的な生活様式や文化への理解を広めるとともに、人権啓発を継続して実施します。	6百万円	
インカルシペ・アイヌ民族文化祭【再掲】	アイヌ民族の伝統文化を伝承・保存するとともに広く市民に紹介するため、民族音楽祭やフォーラムなどを継続して実施します。	4百万円	

施策 2 (仮称) 札幌市立大学の設置と高等教育機関との連携強化

(仮称) 札幌市立大学を設置しその高度な教育・研究機能を活かすことで、地域での産業振興や保健・医療の充実、芸術・文化の向上など、地域貢献に積極的に取り組みます。

さらに、札幌圏の大学間のネットワークづくりを進め、各大学の持つ多様な教育・研究機能をまちづくりに活用します。

高等教育機関と行政が連携し、さっぽろ市民カレッジなどの講座事業の充実を図りリカレント教育を推進します。

事業名	事業内容	事業費	備考
市立大学設置事業	これからの札幌を担うデザイナーや看護職などの人材を養成するとともに、地域産業の振興、保健・医療・福祉の充実、芸術・文化の向上などまちづくりの課題について幅広く貢献することを目指し、(仮称)札幌市立大学を設置します。	4,733百万円	●18年4月開学
大学等高等教育機関と連携した生涯学習の推進	市内、近郊の大学と生涯学習の推進に関する協議機関を設置し、情報交換を通じて、公開講座やリカレント教育などにおける連携を推進します。	—	
さっぽろ市民カレッジ【再掲】	高度で継続的かつ体系的な学習機会を提供する「さっぽろ市民カレッジ」を実施します。また、ボランティア講師を養成するとともに、インターネット講座開設に関するモデル事業を実施します。	31百万円	●15歳以上の市民対象 ●生涯学習センターを会場に実施

成果指標

	現状値	目標値
学習・活動(趣味・スポーツを含む)をしている人の割合(成人)	65.0% (H12)	75% (H18)
学習成果を活用したい人の割合(成人)	58.0% (H12)	70% (H18)
学習環境に満足している人の割合(成人)	53.3% (H12)	65% (H18)
さっぽろ市民カレッジ受講者数	2,400人 (H14)	3,000人 (H18)
生涯学習を支えるボランティア数	4,000人 (H14)	4,500人 (H18)